

グラフィック・バージョン用

PLOT (A4, DASH, DEVICE=プリンター名, FILE=ファイル名, HEIGHT=文字の高さ, HIRES, LANDSCAP, MIN= y 軸の最小値, MAX= y 軸の最大値, ORIGIN, PORTRAIT, PREVIEW, TITLE='タイトルに用いるテキスト文', WIDTH, WINDOWS='ウィンドウ名');
 系列名;

機能:

PLOT は、1 つあるいはそれ以上の系列を観測値の数 (通常は時間の単位) に対してプロットします。系列は縦軸に、時間は横軸にプロットされます。LaserJet あるいはドットマトリックス・プリンターのようなハードコピーをとるデバイスがあれば、プロットが表示されたようにプリントされます。ここでは PLOT のグラフィックス・バージョンについて説明します。これは、DOS/Win と MacIntosh のバージョンの TSP で利用できます。その他のバージョンについては、非グラフィックス PLOT コマンドの項を見て下さい。

使用法:

PLOT に続けて、1 つの系列名あるいは系列名のリストを書きます。プロットでは、系列では色あるいはプロットに用いる線の形によって区別されます。プロットの出力の方法と、プリントの方法をコントロールするパラメータは、PLOT の後の括弧の中に入れます。

グラフはスクリーンに表示されます。DEVICE=を指定すると、グラフをプリントしたければ“P”とタイプしなさいという指示が表示されます。もし何か別の文字をタイプすると、グラフはプリントされません。これはスクリーンを見た後で、気に入らない場合に役に立ちます。

観測値に欠測値がある場合、プロットラインは連続しません。

オプション:

(DOS/Win 用) A4/NOA4 は A4 の用紙を使用します。DEVICE=LJ3 あるいは POSTSCRIPT だけに適用されます。

DASH/NODASH は、スクリーン上のそれぞれの系列に対するラインを (7 種類までの) 別々のダッシュ・パターンを用いて区別するようにします。何も指定しなければスクリーン上ではダッシュはなく (色だけ)、プリントアウトにはダッシュ付です。7 通りのダッシュパターンがあります。

(DOS/Win 用) DEVICE = CHAR or EPSON or LJ2 or LJ3 or LGET or LJPLUS or LJR75 or LJR100 or LJR150 or LJR300 or POSTSCRI or PS によって、プリント出力に用いるハードコピーデバイスを指定します。LJ は HP LaserJet あるいはその互換、EPSON はエプソン・ドットマトリックスあるいはその互換、POSTSCRI と PS はポストスクリプト出力、そして CHAR は以前のラインプリンター出力 (グラフィックスでなく文字) を表しています。前に LJ が付いているのはプリンターのモデルを表し、LJR はプリンターのタイプではなく LaserJet プリンターの解像度を直接表しています。LJET, LJPLUS, LJ2 プリンターの既定解像度は、それぞれ 100, 150, 300 です。既定値の最大解像度は、大きなファイルサイズと長いプリント時間を必要としますので注意して下さい。

(DOS/Win 用) FILE = グラフィックス・イメージを書き込むファイル名。このファイルは後でプリントされます。たとえば、DOS の下で実行中にプリンターデバイスが LPT1 のときは、プロットをプリントするのに次のコマンドを使います。

PLOT(グラフィック・バージョン用)

copy/b ファイル LPT1:

(DOS/Win用)HEIGHT=インチでの文字の高さ。既定値は.25で、(0,1]の間の値は有効です。

(DOS/Win用)HIRES/NOHIRESは、バッチモードでグラフをプリントする方法をコントロールします (REVIEWを用いなかったとき)。通常 (NOHIRES)、グラフはバッチアウトプットファイルにはキャラクターモードでプリントされます。HIRESオプションが用いられたとき、パッチを当てられたDEVICE=とFILE=が用いられます。通常、各グラフ毎に1ページがLPT1に送られます。

(DOS/Win用)LANDSCAP/PORTRAITはプロットの方向を指示します。Macではダイアログ・ボックス内で、このオプションを指定して下さい。

MAX= y 軸の最大値。この値はデータの最大値より大きい、等しくなくてはなりません。

MIN= y 軸の最小値。この値はデータの最小値より小さい、等しくなくてはなりません。

ORIGIN/NOORIGINは縦軸で、ゼロから始まる水平線を引くようにします。

PREVIEW/NOPREVIEWはグラフをプリントするか保存する前に、スクリーン上に表示するかどうか指定します。既定値は対話型の場合PREVIEWで、バッチで用いている場合NOPREVIEWです。

TITLE='グラフの上の方にプリントされる文'

(MAC用)WIDTH/NOWIDTHは、グラフで異なる系列に対応する線分を区別するのに、いろいろな幅を用いるかどうか指定します。

(GiveWin用)WINDOW='ウィンドウ名'。1回のランで複数のグラフやプロットを出力したいとき、TSPは通常一つずつ別々のウィンドウに出力されますから、個々のグラフをゆっくりとチェックすることができます。このようにすると多数のウィンドウが作成されます。その代わりに後のグラフを前のグラフに上書きして、それぞれに同じウィンドウ名を指定します。

*使いやすいように、PLOTのDEVICE=、FILE=、HEIGHT=オプションは、後で変更されるまで次のPLOT(s)やGRAPH(s)コマンドで保存されます。これらのオプションは、プロットする系列を与えないLOGIN.TSPファイルでセットすることができます。たとえば

```
PLOT(DEV=LJ3,HEIGHT=.2) ;
```

例:

次の例は、次ページのようなグラフをプロットします。

```
OPTION CRT NODATE;
NAME ALMONS; ? ALMON AND SHILLER LAGS
FREQ Q;
SMPL 53:1 67:4;
LOAD;
PLOT(PORT,PREV,DEVICE=LJ3,FILE='ALMON.PLT',TITLE='ALMON DATA') EXPEND APPROP;
END;
NOPRINT;
LOAD expend approp; ? ORIGINAL ALMON DATA FROM MADDALA, P.370
2072 1660 2077 1926 2078 2181 2043 1897 2062 1695 2067 1705 1964 1731 1981 2151
1914 2556 1991 3152 2129 3763 2309 3903 2614 3912 2896 3571 3058 3199 3309 3262
3446 3476 3466 2993 3435 2262 3183 2011 2697 1511 2338 1631 2140 1990 2012 1993
2071 2520 2192 2804 2240 2919 2421 3024 2639 2725 2733 2321 2721 2131 2640 2552
```

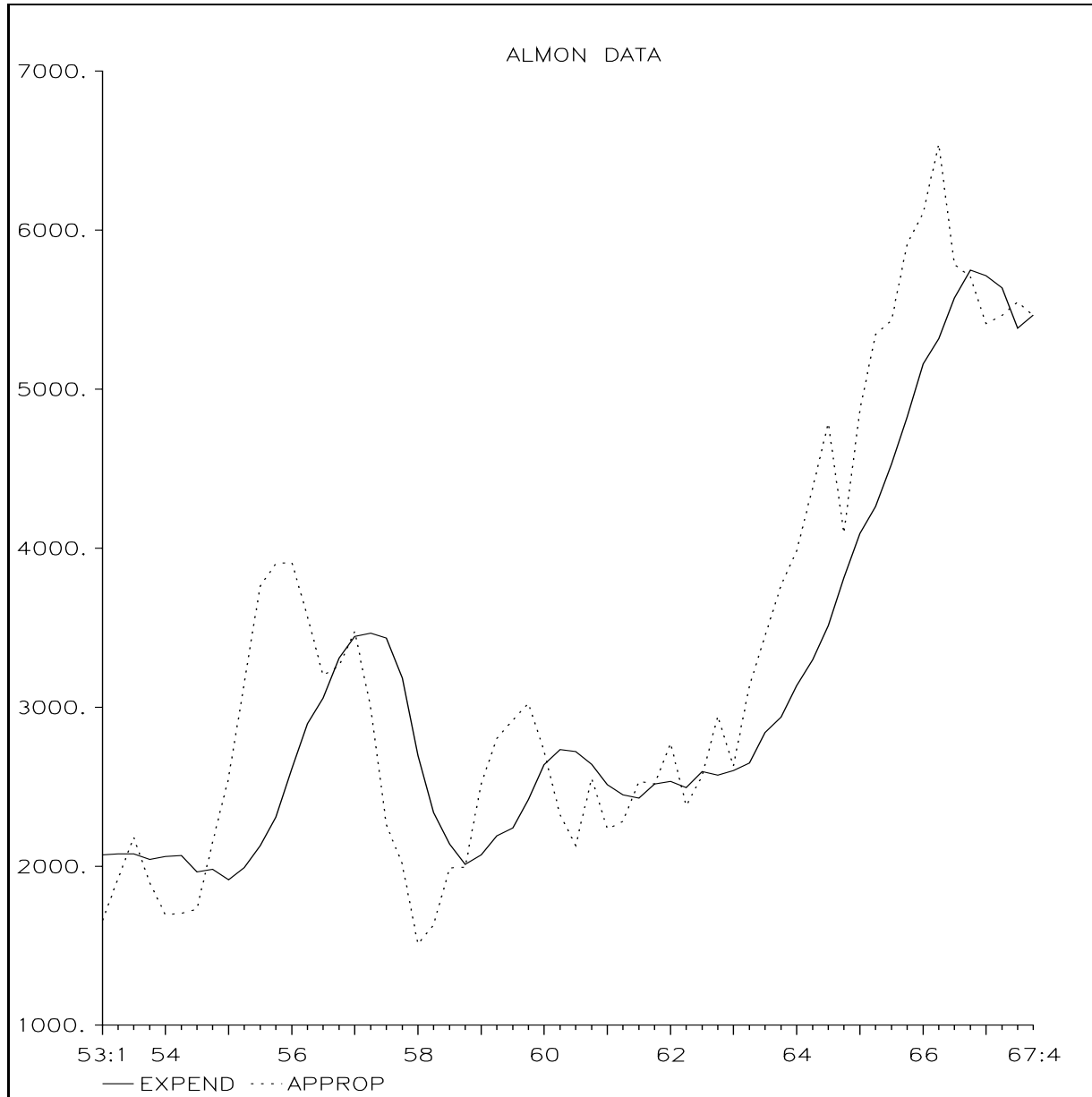
```

2513 2234 2448 2282 2429 2533 2516 2517 2534 2772 2494 2380 2596 2568 2572 2944
2601 2629 2648 3133 2840 3449 2937 3764 3136 3983 3299 4381 3514 4786 3815 4094
4093 4870 4262 5344 4531 5433 4825 5911 5160 6109 5319 6542 5574 5785 5749 5707
5715 5412 5637 5465 5383 5550 5467 5465;

```

アウトプット:

高解像度モードでは, PLOTは水平軸に時間(観測値のインデックス)をおき, 系列をラインタイプで区別します(DOS/Winバージョンではダッシュ, PC/MACバージョンでは線の幅). カラー・モニターでは, 線は別々の色になります. 詳細なグラフィックスについては, インストールディスクセットをチェックして下さい.



アーモンのデータのプロット